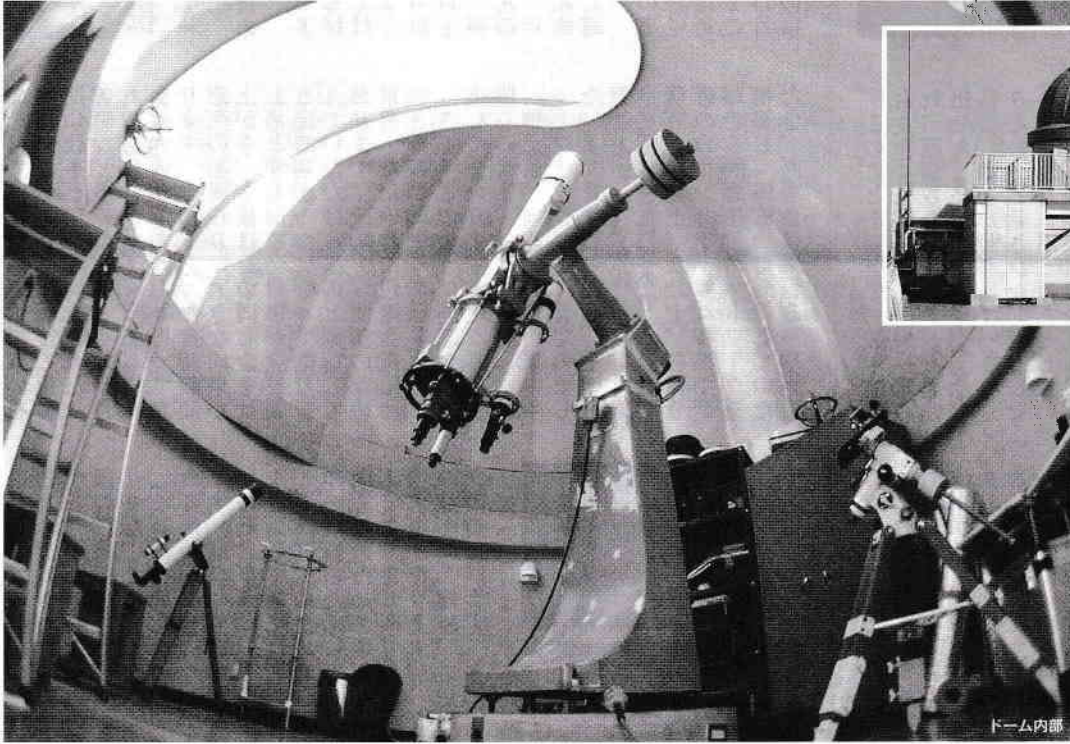


同窓会だより

発行
千葉県立船橋高等学校同窓会
 千葉県船橋市東船橋6-1-1
 〒273-0002 TEL 047-422-2188
 ホームページ <http://homepage2.nifty.com/funaobog/>
 印刷 **(株)サラト**
 姫路市北条宮の町172番地
 TEL 079-284-1380

題字／小原天篤先生



天体観測ドーム(南館屋上)
 15cm屈折望遠鏡(ニコン製)
 昭和47年11月設置(PTAより寄付)
 平成4年度移転 現在も部活動や授業に活躍しています

母校はいま

教員となつて十年目の今春、縁あつて母校である船橋高校の教壇に立つことになりました。四月に久しぶりに船高を訪れたとき、校舎の外観などは変わっていないものの、教室配置は各学年が一フロアに並び、通称「隔離」教室がなくなつていたことには、少子化の波を実感させられました。私の世代はベビーブームで最も生徒数が多かつたため、一学年十学級、それも一クラス四八人でした。今思うと、よくそれだけの人数が一教室に収まつていただけの人数が一教室に収まつていただけの感心させられます。

生徒数は減つたものの、生徒そのものは十数年前とはほとんど変わらないような気がします。私の在校時と比べると、むしろ素直で真面目な生徒が多いように感じます。そして、生徒たちの学校生活に対する情熱も、当時と変わらないものを感じています。勉強はもろろん、文化祭や合唱祭といった学校行事にも自分たちで意見を出し合い、計画を立てて取り組んでいきます。部活動についても、上級生が下級生の面倒を見ながら、自主的に活動しています。生徒達の様子を見てみると、つい昔を思い出し、懐かしんでしまう毎日です。

さて今年度船高では、同窓会のご好意で応接室に、そして保護者の皆様のご協力で、教室に冷房設備を設置することができました。お陰様で生徒、職員ともに、暑さと戦いながら授業や試験を行つていた昨年までと比べ、より集中して学習活動に取り組むことができましたようです。特に、教室への冷房設置に関しては、生徒たちにとつても快適な学習環境を作つていただけたと感謝する一方で、今まで以上に学習に取り組む、実績を残してほしいという保護者の皆様の期待を強く感じている次第であります。

また、今年七月に千葉県教育委員会から出された「県立高等学校再編計画第三次実施プログラム」の決定を受けて、船高は平成二十一年度より単位制高校へ移行することになりました。校内でも先日「単位制検討委員会」が発足され、実施に向けての準備が始まつたところでは、今後は生徒の多様な個性、能力に対応できる教育課程を考えると同時に、進学指導重点校としてのさらなる充実を目指していかなくてはなりません。

時代の変化もあつて、学校を取り巻く環境や子供たちは、十数年前と大きく変わつてきています。時代のニーズにあつた学校づくりの必要性を感じています。しかしその一方で、先輩方より受け継がれてきた伝統を大切に、同窓生として船高の良さ、船高生としての在り方を伝えていかななくてはならないとも感じています。今後とも同窓生の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

寄稿 田口(島田)亜紀子

県立船橋高校 教諭

平成十八年着任・平成四年卒

同窓会に思う



同窓会長 小石 税 (昭和三十年卒)

平成18年も残すところ20日あまりとなりました。今年には事件事故の報道も多く、慌しい一年という印象も拭えませんが、皆さんにとってはどのような一年だったのでしょうか。母校にとっては、いつも以上に、在校生たちの活躍に目を見張るものがありましたし、同窓会にとつては会員の皆さんのお力添えもあり、充実した一年を送ることができました。紙面をお借りし皆さんのご支援に感謝申し上げます。

この充実した一年、多くの事業を行ってまいりましたが、中でも、昨年来取り組んでいた定期同窓生の組織化についてご報告させていただきます。11月23日、多くの同窓生や恩師の参

ボーツとクラブ



校長 川名 博志

今年9月、サッカーアジアカップ予選の対イエメン戦をテレビで見た。その放送の中で、アナウンサーの興味深いコメントがあった。現地では労働者の勤務が午後3時でほとんど終わるので、試合開始を3時半にしたとのことであった。

加を得て定期同窓生の集いを開催いたしました。戦後の復興期に仕事と学業を両立されたご苦労など多くの方から心動かされるお話しを聞くこともでき、会は大成功であったと思っております。念願であった定期同窓生の組織作りには大きな成果が上がり、今後は春の同窓会をはじめとする同窓会行事が全日制と定時制が一つになって取り組んでいただけるものと確信しております。改めて、開催のため奮闘いただいた田辺副会長始め皆さんに感謝申し上げます。

さて、このように同窓会が充実してまいりますと更なる夢も膨らみます。例えば、同窓生の専門家のネットワーク作りを考えてみました。ますます複雑化し、専門分野ごとの知識が求められる昨今、安心して相談のできる医師、病院、弁護士、会計士、各種分野のカウンセラー等々各界で活躍する同窓生のネットワークを構築し、同窓会で登録していただき、同窓会は、悩み事や相談

このことを聞いて、数年前河合文化庁長官が千葉県に生まれ、講演された時のことを思い出した。長官はユーモアを交え、私は「ボーツとクラブ」をつくりたい、と話された。何もしないで、ただ「ボーツ」として時間を待つ仲間の集まり、とのことであった。

わが国の経済は上向いているとのことだが、毎日のように、過労によるとされる自殺やうつ病等の報道に接する。「忙しいが疲れた。」の毎日で良い仕事ができ、豊かな生活が送れるのだけ

を必要とする会員に、専門分野ごとに登録された同窓生を紹介する。いわば同窓会内の互助組織の構築です。

また、このような活動が活発になれば、同窓会の仲間が集まれる場所が必要になってまいります。県立船橋高等学校創立100年の記念事業として「同窓会館」を計画してみても如何でしょうか。同窓生のためにも、更なる100年の飛躍のためにも、是非とも同窓生のための場所が必要と思えてなりません。



ろうか。

健康を犠牲にしてまで、多くの収入を得、大きな家に住み、ブランド品を身に付け、有名レストランで食事を楽しんだりすることが豊かな生活なのだろうか。3時に勤務を終え、しばらくボーツとした時間を過ごし、家族そろって安く手に入る地元旬の味を楽しみ生活はどうだろうか。のんびりし過ぎてボケてしまいうかな。などと考えた1日でもあった。

ごあいさつ



教頭 田辺 新一

本年4月、県立柏高校より赴任してまいりました。赴任以来、船橋高校が伝統校であると感じることが多々あります。夏の甲子園の県予選で野球部が4回戦進出したときのことで、ベスト16を懸けた戦いの中、応援団は最初から最後までずつと立ち放し、決してすわることはありませんでした。途中5回が終了すると、次期応援団長が本校応援席に向かって口上を述べますが、一現在船高は：です。しかしながら、ここで終わる船高ではないのです。これがいかにも船高らしいのです。ああ、伝統高つていいなあと改めて感じました。応援席には、卒業生の方々がお見えになっていました。中には、仕事の途中にちよつと応援に立ち寄ったという方もいました。本当にありがたいことだと思えます。

この度縁がありまして、伝統ある船橋高校に勤務しています。が、学校から少し遠ざかっておりましたので、十年一昔は死語ではないかと思うくらい、国も地方も行政改革の嵐の中、教育現場である学校でも大きな変革の波に曝されているのには驚きました。

教育環境雑感



事務長 竹内 三郎

児童生徒と保護者が学校を選び、学校間の競争を促すことにより、教育の向上を目指す「教育パウチャー制度」が話題になったり、東京都では、都立学校の経営・教育活動・各種事務的業務の支援機能を行う「都立学校経営センター」を設置し、従来の教育委員会と学校との関係を大幅に改めるなど、従来の慣例やしきたりに囚われない時代になりました。千葉県では少子化問題、教育予算の削減、高校の統合及び改編さらには校舎の老朽化や耐震化等非常に厳しい課題を抱えているのが現状です。本校は進学指導重点校として、また平成二十一年度から単位制導入等で、教育環境を今ままで以上に整備拡充する必要がありま

今、学校ではインターンシップ(就業体験)や大学の出前授業などさまざまな取組を行っています。実施にあたっては多くの卒業生の方々に、生徒の受け入れや講師の面などで御協力をいただいております。私も微力ではありますが、この伝統ある船橋高校の発展のために尽力してまいりたいと考えておりますので御支援の程、よろしくお願ひいたします。

今後同窓会・PTAの皆様からのご理解とご支援をいただきながら、八十余年の歴史ある「船高」の発展のため微力ではありますが貢献できれば幸いです。

平成十九年 『春の同窓会』

ご案内

実行委員長 鶴岡 義明
(昭和四十年卒)

今回で十三回目となる「春の同窓会」、来春も例年どおり二月十一日に開催します。

県立船橋高等学校創立七十周年の記念行事を期に始めたこの「同窓会」も、先輩方のご努力が実を結び、幹事学年・先輩・後輩そして恩師が母校の名の下に楽しく集う同窓会の最も同窓会

船橋高校の歴史(十三)

船橋中学校とタイ海軍・潜水艦

元県立千葉高等学校教諭

小川 信雄
(昭和三十八年卒)

今回は『創立五〇周年記念誌 千葉県立船橋高等学校』に述べられているタイ王国と私立船橋中学校の関係を紹介して、その背景を考えてみたい。

現在、タイ王国は新聞の国際面に頻繁に登場しており、東南アジア諸国の民主主義のあり方を問う問題となっている。それは同国における軍部のクーデタである。二〇〇六年九月、タクシン首相が国連総会に出席中にタイ軍最高司令官・三軍司令官が「民主主義統治改革評議会」を結成し、プミポン国王に全権掌握を上奏してクーデタをおこなった。軍部クーデタによって一九九二年以来の国民の選

たる大行事となりました。

毎年、三〇〇名もの方々が集い、旧友との再会、恩師との邂逅、学年年代を越えた新たな出会いに時のたつのを忘れて、会場は正に船高一色に染まっています。

さて、今回、この同窓会の「幹事学年」を務めるのは、第十七回、昭和四十年三月卒業の我が学年です。我が学年はオリンピッククイヤーに同期会を開催し、学年としての団結力は相当なものとなり自負しておりますが、この節目の年の大役に気持ちを新たに、学年一丸となって取り組んでいます。

十一月に定時制卒業の方々の組織もでき、定時制卒業生の一層の参加が見込まれ、今まで以上の皆さんが集まり、

幸によって成立した政府が倒れた。この政変のひとつの原因は首相親族の不正な金融取引などに対する都市中間層の不満とも分析されている

が、タクシン政権の農村などへの貧困対策は地方農村では支持されているが、イスラム教徒の多い地域である南部では「テロ」も頻発するなど複雑な状況もある。

タイ王国ではチャクリ王朝の初代の王であるラーマ一世が一七八二年にバンコクに首都をさだめたが、その後、一九世紀後半に近代化政策が進められ、欧米諸国との外交関係を樹立した。地理的に二つの海にはさまれ、またマレーとヴェトナムという英米の植民地にもはさまれたなかで、東南・南アジアで唯一、植民地とならず独立を維持し

「盛会」間違いないではありませんが、我が学年の特色を生かし、一味違った同窓会を演出し、充実した一日を楽しんでいただきたいと思っております。年に一度、旧友、恩師に再会し、同窓生の輪を広げるには、皆さんの参加が不可欠となりますので、是非ともお誘い合わせてご参加いただき、懐かしき母校への思いを語り合いたしよ

・お願い
今回の同窓会ではアトラクションを予定しておりますので、ご有志の皆様からの景品をお待ちしております。

「盛會」間違いないではありませんが、我が学年の特色を生かし、一味違った同窓会を演出し、充実した一日を楽しんでいただきたいと思っております。年に一度、旧友、恩師に再会し、同窓生の輪を広げるには、皆さんの参加が不可欠となりますので、是非ともお誘い合わせてご参加いただき、懐かしき母校への思いを語り合いたしよ

と泰国海軍大将(同誌四五、四八頁)という回想を載せている。その記事によれば一九三七年に日本に発注した潜水艦の受け取りのために来日したタイ王国海軍将兵四七、八名ほどが私立船橋中学校と宮本町の旅館などに寄宿していたという。また同氏の家にはタイ王国海軍軍人で同国の貴族でもあったサノン・タナーコム大尉が寄宿していた。ほかの将校は宮本町の映画館宮下館(船橋大神宮の西側交差点を船橋中央市場の方向にむかい、すぐに左折する小道入り口右側)にあった裏の桜川旅館に泊まっていた。一般の下士官・水兵たちは校内の剣道場北側に新たに新築した建物に寄宿していた。

このタイ海軍将兵の私立船橋中学校への寄宿は、創立時からの学校長であった千葉健吉氏が八代海軍大佐の依頼によって、引き受けたものだという。この背後の事情はどのようなものであったのだろうか。

「泰海軍」というホームページによれば、タイ王国は一九三四年に「タイ海軍第一回拡張計画」をたて、その一部として排水量二六五トン、速力一六・五ノットで二〇センチ砲四門を装備した主力砲艦四隻を日本の神戸川崎造船所に注文した。このことには日本の海軍の意向が関わっていると思われるが、その詳細なことは不明である(防衛庁防衛研究所には旧日本陸海軍の資料が保存・公開されているが、一九三六(昭和一一)年にワシントンおよびロンドン海軍軍縮条約は満期をむかえ、新しい条約交渉もまもなく、日本は海軍軍縮会議から脱退し、ワシントン条約も終焉し、太平洋は無条約時代となった。その結果、一九四五年の敗戦の時に戦争責任を問われるかと危惧したためなのかどうか、理由は判然としないが、一九三七年以降の日本海軍関

係の文書は廃棄されてしまっているという(ことである)。この四隻の砲艦は一九三八年六月二十六日に神戸港でタイ海軍に引き渡されたという。

前述した「拡張計画」は砲艦とともに四隻の潜水艦も日本の神戸三菱造船所に発注した。この潜水艦は三七〇トンの小型で一九三七、三八年にかけて建造されて、マツチャーマ号、ウイレン号、ブライチュンボン号、シムサツタ号と名付けられた。日本海軍によるタイ王国海軍将兵への操艦訓練をおこなった後の一九三八年六月五日に、四隻の小型潜水艦はタイ王国海軍将兵が操艦して、神戸港をタイにむかつて出港したという。

小川井敏明氏の記事では同氏が一九六〇(昭和三五)年五月にタイのバンコクでの設計の仕事の折に海軍大将となった旧知の海軍大尉サノン・タナーコム氏に再会したことも紹介されている。

なお参考に述べると、アジア・太平洋戦争の開戦時、日本軍は真珠湾の奇襲攻撃に先立ってマレー半島侵略のために、イギリス連邦軍の防衛陣地を迂回してタイ南部シンゴラに奇襲上陸してタイ王国軍と交戦した。アジア・太平洋戦争で日本軍と最初に戦ったのはタイ王国軍である。日本軍と交戦して最初に戦死した兵士はアメリカ軍の兵士ではなく、タイの兵士であることを知ってほしい。しかし、タイ王国は日本と一九四一年二月二日に日泰攻守同盟を結び、四月二月二日には米英に宣戦を布告した。タイ王国は世界征服をねらう枢軸国側、いわゆるファシズム・軍国主義国家側にたつて、四五年に敗戦をむかえたのである。

参考
<http://www.horae.dti.ne.jp/~fuwela/newpage56.html>

恩師

探訪

久保浩二先生

『虚往実帰！ 県立船橋高校の思い出』

虚往実帰！未熟者が30歳からの6年間を県立船橋高校に勤務させていただきました。その当時の生活を振り返ると、汗顔の至りとはこのことか、という思いがいたします。

未熟者が生徒諸君や諸先輩・同僚の皆さんから多くのことを学ばせていただき、この道の仕事を進めていく上で誠に貴重な財産を得させていただいたように思います。まさに虚往実帰の感を深くいたします。

昭和50年4月に赴任した当時、ご配慮をいただいていた東船橋一丁目(日枝神社の脇)所在の校長官舎に住まわせていただいたこともあって、特別な愛着と親しみを感じる職・住接近した思い出深い生活をいたしました。

はじめの3年間を学級担任としてともに過ごした学年の諸君は昭和53年3月に巣立ちました。その折に説明のしにくい複雑な寂寥感がこみあげてきたことを鮮やかに思い出します。

「寄せくる波のごとくたゆまぬ努力を誓う紅顔秀眉」の生徒諸君とともに熱い青春のときを過ごしました。

担任したこの学年の学校行事が懐かし

思い出されます。

昭和50年夏に実施された林間学校は長野県の高峰高原から籠ノ登山頂を経由して湯の丸高原、そして鹿沢温泉に至る相当程度に厳しいルートを踏破しました。全員参加の集団登山といつたものですから生徒を引率する職員も気苦労が多く大変でありました。そのような中で、生徒諸君も大汗をかきながら本当によく頑張ったと思います。

当時の体育祭では、騎馬戦、棒倒しなど現在では多くの学校が取り組まなくなっている勇猛なプログラムも実施しましたし、男子生徒による「船高体操」は上半身裸で実施したと思います。現在の高校は全般的にそのような環境にはありませんので、懐かしい思い出となっていますけれども、生徒諸君の心境がどのようなものであったのかな？と懸念されるころであります。

また、柔道と剣道の寒稽古がありました。男子生徒全員参加の行事として実施されたものですが、渡辺宏道先生の指導による寝技から入る稽古を懐かしく思い出します。私はこの寒稽古で初段を認定していただいたので誠にありがたいことでした。

そして、前任者である佐藤豊先生から引き継いだバレーボール部監督の仕事もまた感慨深いものがあります。これは、前任者の伊井正美先生(当時：八千代高校監督)や佐藤豊先生(当時：千葉市立高校監督)にご指導をいただき、親しく練習試合などもさせていただきながらなんとか勤めることができました。前の「同窓会だより」(平成16年12月発行)で伊井正美先生が、オリンピック銀メダリストの白神守さんのことを述べておられました。白神さんは昭和52年8月4日に、まえばれもなくふらりと学校に立ち寄られて部員諸君に話をされたことを昨日のことのように思い出します。バレーボール部の伝統を引き継いだ諸君は、それでも昭和53年度に東京都で開催された関東大会には久しぶりに千葉県代表として出場することができました。このチームは安藤慶人君(昭和54年卒業)戸板長俊君(同)阿部直哉君(同)などが中心となってよく頑張ったと思います。

前年の新人大会では、県大会に出場できなかった状況から見事に勝ち取った代表権でした。立派であったと思います。

県立船橋高校はその優れた校風ゆえに高い評価を得ている数少ない高校であると思います。その優れているところは、旧時代の教育の枠組みを踏襲するかたちで高い評価を得てきたのではなく、その時々職員や生徒がその校風づくりに情熱を傾け、たゆまぬ努力を続けてこられた結果であると思います。そのような努力を積み重ねてこられた諸先輩の皆さんからたくさんのご指導を学ばせていただきました。

県立船橋高校の思い出は、虚往実帰ゆえにただただ感謝あるのみ、であります。「船高」の益々のご発展を祈念いたします。



久保浩二

プロフィール
昭和50年赴任
元男子バレー部顧問
前 千葉県高体連バレーボール専門部長
現在 県立松戸六実高等学校長



あの頃、今、これから

カウンセラー

助 川 菜 生

(平成4年卒)

スクールカウンセラーとして、十三年ぶりに船高に戻ることになってから、一年が過ぎようとしています。

着任当初、懐かしさにまかせて、校舎の隅から隅まで歩きまわりました。その場所に戻ると、タイムスリップしたようになり、記憶が呼び起こされます。思えば優等とは程遠い生徒でした。自分である学業はとりあえず置いておいて、朝から夕刻遅くまで部活三昧の毎日。他にも、たばな祭やほととぎす祭、野球部の応援団やリニアモーターカー製作など、行事には全力投球。そのおかげで、苦手教科はなんとか赤点をクリアすることに苦心し、レポートはいつもメッキリ心理職を目指そうと思ったのも、この船高時代のことです。当時まだ、負けの医学と呼ばれていた終末期医療を扱ったテレビ番組に触発されて、高校までは教科になかった心理学のなんたるかもよくわからずに、大学は心理学科ばかりを受験しました。

それでも、大学学部時代はやはりサークル三昧で、テスト勉強やレポートは一夜漬け、心理の職業に直に結びつく勉強を本格的に始めたのは、大学院に入ってからです。心理職を志す学生は、まずは自分の心理、ものの見方や考え方のくせを知る必要不可欠だといわれます。実習や演習を通して、自分の嫌なところや自分の目からも隠しておきたかったところ、苦手なことや下手くそなことが、お腹を切って聞くようにあらわになるよう、正直この時期の勉強はしんどかったです。

大学院修了後、小児科クリニック、児童養護施設、中学・高校に保健所の乳幼児健診と、死にゆく人とともにいるはずが、縁にたぐり寄せられるように、子ども

も、若者とその周囲の人に出会う職場に恵まれ、今に至ります。

その間に受験した臨床心理士試験では、仕事をしながら勉強することの大変さを思い知りました。学友が、パブル崩壊直後の就職難の時期だったこともあり、不採用通知が届くたび「人間を否定されたような気がする」と言っていた面接試験も、私自身はいわゆる就職活動をしたことがなかったため、この時まで未経験でした。臨床心理士の二次試験である面接試験は、事前情報で「知識を問うというよりは、何を言われても泣いたり怒ったりしないかどうかを見る試験」と聞いていましたが、実際さすがに痛いところを突きました。

この仕事をしていると、特に学校にまつわる話は、自分自身の経験上思いつくことがたくさんあります。幼稚園時代、登園を嫌がって泣いたこと。引越した途端、嬉々として通うようになったこと。小学校低学年の時は、担任の先生に「真面目過ぎて心配」と言われるほど完璧主義だったこと。高学年で転校して、今度はないなかな馴染めなかったこと。心理療法の原則として、自分の経験から安直に助言することはありませんが、「変化は必然であり、変化は瞬間に起こり、変化は『変化するための方法』を知っていないと起こる」ことを体験的に知っていると、いう強みになっています。

私が仕事で人に会う時、いつも心にとめていることは、一つは「答(ゴール)は本人の中にある」ということ。家族や友達や先生など周囲の近しい人もそのヒントを知っているかもしれませんが、間違ってもこちらにはありません。答は与えるのではなく、引き出すものです。二つ目に「ないもの探しではなく、あるもの

探し」。困っている時はとかく「なにが／誰がいけないんだろう?」「なぜこうなってしまったんだろう?」「どこに問題があるんだろう?」「なにを直さなくてはならないんだろう?」「目がいきがちですが、ないものをいくら集めても解決の役には立ちません。かわりに「この人はどうなりたいたいんだろう?」「よくなったとき、どうなっているんだろう?」「この人はなにが得意／好きなんだろう?」「なにがもう既にできているんだろう?」「なにを使えるんだろう?」に興味をもち、話題にしたいと考えています。そして、三つ目に「問題(行動)と人間を分けること」。二十四時間三百六十五日の「問題児」はいません。罪を憎んで人を憎まずの考え方で「外在化」とも言われます。風邪になるのは風邪菌が悪さをするせいで、人が悪いわけではないのと同じように、問題行動も「菌」や「虫」のせいで、追い出したりやつつたりできればいいのです。最後、四つ目は「他人と過去は変えられない」。その後に「けれど、自分と未来は変えられる」が続きます。

人には、そもそも変化・成長する力があります。なかでも、子どもの力は目覚ましいもので、「その時」に立ち会えてまぶしいような気持ちになることもあります。せめて、その変化の邪魔をしないこと、できれば、今のこの機会をチャンスにして、その力を発揮するお手伝いができればなあと思いつつ、日々仕事に臨んでいます。

第四回県立船橋高校同窓会親睦ゴルフ大会



今年も、三代川幹雄(名誉会長)、小石税(会長)、三橋衛(元校長)の三名様が公私多忙の中参加を頂き、29名の先輩後輩が一堂に会し10月13日(金)に昨年同様、総武CC印楯コースで開催されました。今回は、昭和31年卒の50周年記念の同期会に遠方から出席された方もたつての希望で参加され、31年卒の参加者には一石二鳥の大会となりました。昨年とはうってかわり今回は早朝より快晴微風の絶好のゴルフ日和となり、見事な放物線を描いて飛ぶ白球を右に左に追いかけるが、健康的な一日を過ごしました。プレー終了後、クラブハウス2階レストランにて懇親会、表彰式が行われ、17番ホールをチャリティホールとした結果、参加者の皆さんから二万八千五百円の真心の浄財が寄せられました。

協賛者

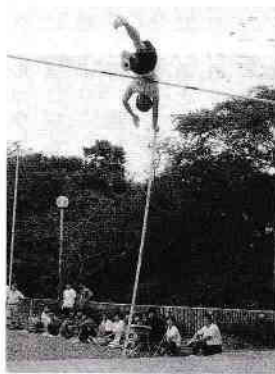
三代川幹雄、小石税、天羽生豊、宮里盛雄、宇井宏夫、成島弘、相澤友夫

成績結果(新ペリア方式) ネット グロス ハンデ
男子優勝 北村 誠 70.8
二位 三橋 衛 84
三位 宮里 盛雄 92
女子優勝 吉田美智子 74.8
二位 大沢 和子 104
三位 谷川 侑子 117

17年度決算につきご認識頂きたい事は、昨今の在校生の活躍に伴う援助金の増加に応じた入学時同窓会費の3,000円(旧2,000円)への値上げです。18年度はPTAの負担でエアコンの導入が認められ実施されるなど、教育の場も自己負担増加が求められる時代となりました。同窓会としても教育環境に微力ながら貢献をとお考え、その原資たる事業協力金の更なるお願いをした次第です。お蔭様で16年度を上回る255万円強のご協力を頂きましたが、同窓会便り発行費用を僅かに超える程度で、何らかの方策を今後も講じていく必要があります。又、ゴルフ部会からの寄付金は当初同窓会経由を想定しましたが、参加者皆様のこともあり直接学校寄付となりました。(17年度15万円) 入会時同窓会費の値上げもあり、18年度は母校生徒の団体支出金は一般会計、同窓生への特別奨励金は特別会計を原則とする予算建てをしております。特別奨励金は、普通会計の団体支出金が予算枠を超えた場合に備えつつ、同窓生の協力による出前授業の講師謝礼や、今年度本格的に組織確立する定時制同窓会の上げ費用等に充足予定です。

同窓会事業報告

平成17年度事業報告



陸上大会

平成17年度特別会計収支決算報告書

特別会計1 春の同窓会基金

1. 収入の部
摘要 16年度決算 17年度予算 17年度決算 備考
前期繰越金 400,000 400,000 400,000
会費等収入 2,520,000 2,600,000 2,520,000 245名
利息 12 20 10
合計 2,920,012 3,000,020 2,920,010

2. 支出の部
摘要 16年度決算 17年度予算 17年度決算 備考
要会費 1,911,275 2,000,000 1,862,465 本年度245名 前年250名
同アトアクション代 100,000 100,000 100,000
通信費 100,000 100,000 100,000
幹事学年打合せ費 100,000 100,000 100,000
運営費 50,000 50,000 50,000 名札・参加者名簿等作成
事務局実行委員打合せ 50,000 50,000 50,000
特別会計2への繰出 208,737 200,020 257,545
次期繰越金 400,000 400,000 400,000
合計 2,920,012 3,000,020 2,920,010

特別会計2 事業関係

1. 収入の部
摘要 16年度決算 17年度予算 17年度決算 備考
前期繰越金 6,589,109 6,309,858 6,309,858
事業協力金 2,443,060 2,500,000 2,201,340 入金件数961件3月20日サトウ博望
会員名簿販売代金 12,000 0 0 *4月24日截止1,181件2,666,000円
寄付金 300,000 300,000 0 *ゴルフ部会は学校直接寄付
特別会計1よりの繰入 208,737 200,020 257,545
利息 15,132 200 103
合計 9,568,038 9,310,078 8,768,846

2. 支出の部
摘要 16年度決算 17年度予算 17年度決算 備考
同窓会だより発行 2,539,581 2,550,000 2,342,479 本年:会報発は13,927+業務4,777通
振込み手数料 840 2,000 840 前年:会報発は14,348+業務4,428通
通信費 58,715 170,000 146,565 後納郵便払い書遅延分有
名簿管理費 21,044 30,000 13,440 サトウデータ出力等
打合せ会議費 88,000 100,000 28,000
学校寄付金 0 0 0
ホームページ関連 100,000 120,000 83,356
特別奨励金・報奨金 450,000 600,000 360,000 全国大会出場補助
寄付者の礼状他 0 120,000 0 絵巻展協賛10万円お祝い2万円
雑費 0 30,000 1,480 コピー代
予備費 0 100,000 30,000 前副会長功労賞品
次期繰越金 6,309,858 5,608,078 5,642,686 預金2口座*5月13日監査確認
合計 9,568,038 9,310,078 8,768,846

同窓会事業報告

平成17年度 事業報告

17年度の事業に伴う決算は次表の通りです。

第2号議案

平成17年度一般会計収支決算報告書

1. 収入の部
科目 17年度予算 17年度決算 16年度決算 備考
繰越金 1,907,867 1,907,867 1,915,028
会費収入 796,000 1,182,000 882,000 本年全324 定70
預かり金 324,000 0 0 (1,120,000+60,000)
雑収入 利息 20 17 14 前年全367 定74
その他 0 0 0
合計 3,027,887 3,089,884 2,797,042

2. 支出の部
科目 17年度予算 17年度決算 16年度決算 備考
会議費 総会 80,000 43,550 61,960
役員会 130,000 99,382 65,735
通信費 50,000 16,100 24,790
印刷費 100,000 69,379 64,345
消耗品費 20,000 0 0
人件費 20,000 10,000 10,000 総会案内宛名書き
後援費 団体支出金 300,000 306,500 416,000 関東大会出場補助他
卒業記念費 100,000 101,409 95,740 卒業証書筒
育英金 10,000 0 0
組織企画費 50,000 70,000 45,000 クラス会補助 14件
交際費 会長 20,000 0 0
慶弔費 50,000 10,000 40,000
事務局費 60,000 21,695 65,605 交通費等
予備費 324,000 0 0
次期繰越金 1,713,887 2,339,869 1,907,867
合計 3,027,887 3,089,884 2,797,042

3. 財産目録
一般会計積立金 700,000 郵便局定期貯金
積立金利息 80,650 H18年3月末(税引き後)
合計 780,650
自動車1台 16年3月購入 トヨタハイエースバン(智志野100サ6173)
同窓会書庫1基 所有者名義:同窓会会長 小石 税

おたより彼れはれ

伊藤 鷹一 (昭和28年卒)

平成17年11月20・21日恩師高瀬春雄先生の傘寿をお祝いして一宮町のホテル一宮館にてクラス会を開催する。先生は隣町の岬町にお住いでご自分で車を運転してご出席下さいました。髪は我々の誰より黒々としていた。

増田美代子 (昭和46年卒)

毎年、3月末の土曜日開催されてきた体操部OB会が新OBがおらず、開けなくなったというお便りを平成15年卒業生よりいただきました。ここ何十年も出席していなかったのに淋しく感じました。いつか再開されることを願っています。

宮川 康子 (昭和40年卒)

2月4日、5日と生物部同期7名+OB1名で遠慮のお祝い旅行に出かけます。60年を元気で迎える事が出来たお祝いです。

宮本 澄子 (昭和35年卒)

船校歴史(2)小川先生の記事を読みました。平井先生方6名の先生方で立上げて下さった日毛教室。ご恩は忘れる事なく今日に力強く生かされております。先生方の熱意により卒業出来ました。すばらしい青春時代を送れた事、生涯感謝申し上げます、ありがとうございます。

廣川多恵子 (昭和47年卒)

夏の教員パソコン講習会のため、卒業以来初めて船高に行きました。京成駅からの道をお願いしながら歩いてたまたま、思わず「あつた」と叫んでしまいました。

飯田 郁夫 (昭和29年卒)

班達が在学中に校歌が出来ました。講堂当時での発表会では、作詩のサトウ・ハチロー、作曲の山田耕筰先生が話をされ、岸輝子が歌いました。

田島 徳子 (昭和28年卒)

昭和25年新制高校と同時に船高1年生になった者です。美術部で油絵やデッサンをしていました。山田先生が美術

の先生でした。武蔵野美術大に入り、その後長崎に住んでいます。美術展の記事にはびつくりし、なつかしくなりました。

平岡 健夫 (昭和21年卒)

若い頃からの趣味だった囲碁が(旧制船中)2年の時同級生の板倉君に教えられた。思いがけず老後の生活をしっかりと支えてくれています。感謝!

國分 孝夫 (昭和60年卒)

放送委員会のNHK杯優勝おめでとうございます。私もOBなのですが当時はそれ程の成績を残せず、まだ見ぬ後輩ですが、大変誇らしく祝福してやりたいと思います。

大久保明夫 (昭和29年卒)

旧3Fのクラス会は、毎年、開き、出席しています。平成17年11月17日には、古希の祝い兼ねた会をもちました。高校及同窓会の発展を願っています。

平松 裕美 (昭和49年卒)

50才となり、身体のうちこちに故障が出てきました。眼、腰、肩、そして糖尿病の予備軍と合唱部の活躍NHKコンクール金賞をみて自分の頃を思い出しました。

高藤 蘭子 (平成2年卒)

卒業して15年経ちました今でも、校歌や当時の記憶がよみがえる時があります。そんな時は自分が今も母校に支えられていることに感謝しております。

大山 京子 (昭和42年卒)

平成17年春の同窓会に出席させていただきました。幸運にも同期の方にお会いする事が出来、なつかしい時を過ごすことが出来ありがとうございました。

西野 幸代 (昭和58年卒)

同窓会だより、なつかしく拝見しています。子どもを通じた役員仲間が実は船高の先輩であることが判り、世間は狭いと感じました。

細井 信子 (昭和27年卒)

在校中は少しも家では学習した事が無かったです。音楽部と読書サークルに所属しました。今でも、時々当時の方々に呼ばれて行く事があります。その時こそが、人生での、最大の楽しい瞬間でもあるのです。殆んどの方が、何らかのかたちで、現役中で活躍して

居られる様子が、嬉しいのです。

出山子ワ子 (平成元年卒)

母校、県船へ桜を植えたい長年の夢も有りました。桜は人々を元気にして下さる。又、母校の桜となる。桜はやはり美しいと考えています。

五十嵐 隆 (昭和47年卒)

東京の西のはずれに暮らしていると船橋近辺に立ち寄る機会がなく「同窓会だより」を懐かしく読んでおります。是非ともクラス会を船高周辺でやりたいですね。

小林 宏 (昭和21年卒)

母校の発展を喜んでおります。昭和17年に入学者は戦後昭和21年、22年、23年(新制高校)と三年次に亘り卒業。従って卒業年次の同窓会は出来ず昭和17年、17年会として同窓会を行っております。今年も11月12日に22名出席して同窓会をひらきました。(戦後60年です)

川島 義美 (昭和35年卒)

宮本中学校と船橋高との共同プール、楽しかった夏の思い出が、又駅が近くなって最高のなあ。最高ついでいね。

宮本 恭子 (昭和55年卒)

江上紹子さん、阿部哲子さん、e.t.c. ジャーナリストやアナウンサーで活躍する船高OBの方たち、そして私も船高出身である事を誇りに思います(もしかして、劇団「ひとり」さんもOB?)

松名まさ代 (昭和43年卒)

橘球会(バスケット部)には時々参加しています。応援団風の男っぽい、校歌斉唱にはとても感動します。パンカラという言葉を思い出かべます。先輩方はともお元気、いつまでも続けたいですね。

佐藤 嘉男 (昭和20年卒)

卒業年には2クラス(0人近かった)と記憶していますが、現在は10人足らずとなつてしまつたようです。私は健康第一になお、スポーツに励んでおります。

杉原 次夫 (昭和25年卒)

川柳

◎子の猥たまにはつける鬼の面
◎休みわすか孫が宿題連れてくる
日々「感謝」の気持ち忘れずに過ごしております。

高藤 達夫 (昭和38年卒)

!??!?!?

相馬 順子 (昭和27年卒)

月日のたつのは早いもの。卒業以来、半世紀を過ぎ古希もすぎましたが健康で暮らしております。同窓会のお知らせをいただくたびに学生時代をなつかしく思い出しております。

富田 結志 (昭和36年卒)

最近の船高の活躍を見て心強く、嬉しく思っています。野球部の試合や陸上部の駅伝の応援に行っています。男女共健闘。文武両道の船高生を応援しています。

同窓生からのお便り

卒業50周年の同期会

塩田俊一 (昭和31年卒)

今年の春の同窓会席上で、出席した同期の13名の間で卒業後50年の節目の今年に「最初で最後」の学年会開催へ向けた機運が高まった。早速学年幹事と学級幹事が集まり、平成18年10月に北は宮城、南は沖縄から総勢81名が集い、実に50年ぶりの再会を果たした。

近況報告に始まり、ハモニカ演奏や独唱と会場は、熱気に包まれ、女性

陣の校歌の大合唱で最高潮に達した。出席者一同新たな思い出の一頁を胸に刻み、来春、平成19年の春の同窓会での再会を約し散会した。

3Gクラス会

円城寺有終 (昭和29年卒)

平成17年6月の昭和29年卒3G同窓会は、千葉白子温泉への初めての一泊旅行として開催した。このとき、聞いた同窓の鈴木春雄氏のボランティア活動を紹介します。

氏は近くの小学校に田んぼを貸し、年間を通して米作りの指導を行っているとのことだ。きっかけはお孫さんの体験学習だったそうだが、昨年ですでに三年間、活動を続けていた。田んぼ120㎡で、もち米60kgが収穫できる。秋には小学校のバザーで餅つき、販売を行い、昨年は収益金をパキスタンの地震被災地に寄付されたそうだ。

昨年は私も収穫にご一緒させていただいたが、氏の活動は我々3Gの誇りである。今後益々のご活躍を祈念する。

「学年会とクラス会の報告、一部割愛あり、掲載させていただきました。投稿ありがとうございます。」

学年会、クラス会、クラブ会の開催予定や事業報告を掲載するコーナーです。掲載を希望される方は、同窓会事務局内「同窓会だより掲示板」係へ原稿を郵送してください。同窓会だよりは、毎年12月上旬発行となりますので、原稿は8月末日を締め切りとさせていただきます。なお、卒業年、担当者氏名、電話番号を記載願います。お送りいただいた内容について、担当者の方と調整させていただく場合がございます。

同窓会ホームページ 引っ越しのお知らせ
新URL: http://homepage2.nifty.com/funaobog/
12月より上記URLに引っ越します。度々の引っ越しにより御迷惑をお掛けし申し訳ありません。今までは仮スペースでしたが、今回より正式ページとして管理・運用します。
同窓会事務局ホームページ係